

2023 「植村直己冒険賞」受賞者



やまだ たかし
山田 高司(東京都在住)



たかの ひでゆき
高野 秀行(東京都在住)

イラクの巨大湿地帯（アフワール）探検

概要

ティグリス川・ユーフラテス川が合流する下流域一帯に東京都を上回る規模で広がる（巨大湿地帯）アフワールを探検調査し、現地の暮らしや技術、伝統を体験。4500年前から造られ現在は廃れてしまっている現地の伝統的な舟「タラーデ」を現地の舟大工に頼んで再現、乗船。また、ティグリス川・ユーフラテス川源流域をカヌーで踏査した。

特筆すべきは、現地で「アザール」と呼ばれる布のルーツがユダヤ人にあり、ムスリムによって各地に伝播した可能性を見出し、そこから宗教的、人種的、民族的な様々な構造をあぶりだした。そして2023年、足掛け6年4度にわたる探検を記録にまとめた。

工夫・独創性

- ・日本在住のイラク人に現地の状況や地域の歴史の変遷についてのヒアリング、関係者及び各署への周到な調査や丹念な準備を行って探検を実施した。
- ・2018年にユーフラテス川源流からカヌーで川下りを始め、現地の関係者を通じて多くの人々と繋がり、交流しながら様々な発見を記録し、高野氏が著書としてまとめた。
- ・現地マンダ教徒の船大工を探し当て、伝統的な舟「タラーデ」を製作してもらい、舟による湿地帯行を体験した。
- ・山田氏の絵を描く能力は非常に優れており、写真では伝えきれないものをイラストに描き上げて記録した。また、現地の人の似顔絵を即興で描いて人気を博し、現地に溶け込む際の一助となった。
- ・山田氏の描写力、長年の川旅の経験と環境問題に対する活動、高野氏の発想転換力と好奇心、高い語学力が相まったことで、今回の探検で多くの成果を生んだ。

冒険経歴等

山田 高司

探検家、環境活動家。東京農業大学探検部出身。

「地球の川をつなぐ」を目標に世界の川をカヌーで下る。アフリカでの川行のなかで、「川から世界を見る訓練をしてきた中で、その源である森のこと、人々の暮らしを住み込んでもっと知りたい、もっと深く見る目が欲しい」と地球の庭師修行として植林プロジェクトなどを行っている。

1981年 東京農業大学在学中に南米大陸の三大河川（オリノコ川、アマゾン川、ラプラタ川）7,750kmをカヌーで縦断し、「青い地球一周河川行」計画をスタート。

1985年～ アフリカに渡り、セネガル川、ニジェール川、ベヌエ川、シャリ川、ウバンギ川、コンゴ川の川旅を成し遂げる。

1987年～ コンゴ川以降、パンアフリカ河川行最後のナイル川行は現地政情不安により中断

1991年～ 「緑のサヘル」を立ち上げ、現地で植林活動を実施

1997年～2000年代前半にかけて、環境NGO「四万十・ナイルの会」を主宰。

高野 秀行

ノンフィクション作家。早稲田大学探検部出身。

ポリシーは「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをし、誰も書かない本を書く」。大学在学中の探検行をまとめた、「幻の怪獣・ムベンベを追い」でデビュー。

1992～1993年 タイ国立チェンマイ大学日本語科で講師

2008～2009年 上智大学外国語学部で講師

【受賞歴】

2005年 『ワセダ三畳青春記』で第1回酒飲み書店員大賞を受賞

2013年 『謎の独立国家ソマリランド』で第35回講談社ノンフィクション賞受賞、第3回梅棹忠夫・山と探検文学賞受賞



葦でできたムディーフにいる山田隊長（右）と高野秀行（左）

©高野秀行/『イラク水滸伝』（文藝春秋刊）より



伝統的な舟(タラーデ)を漕ぐ高野秀行(真ん中)と山田隊長(左)